

時代の変化とともに通信制教育に求められる役割が変化する中で、高校教育としての適正さと多様なライフスタイルをもつ生徒に対応できる柔軟さを両立させ、令和4年度から策定したスクール・ミッションを実現するために、以下の学校経営計画を策定する。

I 目指す学校

《スクール・ミッション》

多様な背景や環境にある生徒の課題を分析し、個別の生徒指導や学習支援などの特色ある教育活動を通じて、自分らしさを見つけ自分の夢を叶えるため、自立心を持ち、コミュニケーション能力に長け、知・徳・体の調和のとれた、社会に貢献する人間性豊かな生徒を育成します。

《ポリシー》

1) グラデュエーション・ポリシー

- ①基礎的・基本的な学力を身に付け、コミュニケーション能力を高めようとする。
- ②様々な教育活動を通して知・徳・体の調和を深め、社会に貢献しようとする。
- ③自立心を持ち、目標に挑み、やり抜く力を育み、豊かな人間性を伸ばそうとする。

2) カリキュラム・ポリシー

- ①基礎的・基本的な学力を身に付けられるよう、生徒の「自学自習」をきめ細かく支援する。
- ②基礎的な内容をしっかり学び、自らの個性・能力・希望に応じた進路実現を目指す。
- ③学習活動を通じて得られる達成感に基づく自己有用感を醸造する。

3) アドミッション・ポリシー

- ①学ぶ意欲と学び続ける情熱を強くもち、自己実現に向け努力する。
- ②仲間と協調し、社会貢献できる自立した社会人を目指す。
- ③毎週のスクーリングを大切にし、目標に向かって挑戦しようとする。

II 中期的目標と方策

通信制の特徴的な教育方法を学習支援システム等の有効活用により効果的に機能させることで、生徒一人ひとりの課題を分析し、スクール・ミッションを実現する。

【目標】 グラデュエーション・ポリシーを達成する。

【方策】

1) 基礎的・基本的な学力を身に付け、コミュニケーション能力を高める。

- ア)カリキュラム・マネジメントに基づいて毎年レポートをブラッシュアップすることで、生徒の学力3要素修得につなげる。
- イ)レポートの添削方法を工夫し、一人ひとりの興味・関心・意欲を高める。
- ウ)面接指導にICTを活用したAL型授業を取り入れることでコミュニケーション能力を高める。
- エ) 考査の工夫で学力の定着を図る。
- オ)教員一人一人が教育課程を深く研修し、生徒一人一人の要望に応じた効果的な履修支援ができる体制を構築する。
- カ)通信制用の学内情報ネットワークシステム、学習支援システム、Office365等のICTを有効活用することで、多様なライフスタイルの生徒の支援を積極的に行う。
- キ) 日常の生活の中で拠り所となる居場所を提供する。

2) 様々な教育活動を通して知・徳・体の調和を深め、社会に貢献する意識を高める。

- ア)特別活動(HR、学校行事、清掃活動、部活動等)の工夫により各活動の魅力を高めて参加者を増やし、生徒一人一人が知・徳・体の調和を図る機会を提供する。
- イ)科目「総合的な探究の時間」、「総合的な学習の時間」、「人間と社会」において、自己理解を促進し、社会における自己の在り方の考察を推進する。
- ウ)地域や異年齢集団との交流を重視し、社会貢献する喜びを感じる活動を充実する。
- エ)外部機関の主催する行事や大会への参加を奨励する。

- 3) 自立心を持ち、目標に挑み、やり抜く力を育み、豊かな人間性を伸ばす。
- ア) キャリアガイダンスへの参加を促し、進路情報の提供及び解説を工夫する。
 - イ) 外部機関や人材を活用したキャリアカウンセリングを推進する。
 - ウ) 生徒に当事者意識をもたせ、自発的な進路活動を支援する。
 - エ) 生徒の自立につながるように、特別活動を改善・充実を図る。

Ⅲ 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

[学習指導]

<目標>

(A) 活動率向上 (B) 単位修得率の向上 (C) 後期活動率低下の抑止

<方策>

ア) スクーリング指導(面接指導)

- ① 出席したくなるスクーリングの工夫と実践を行う。
- ② 一人一台端末の活用を行う。
- ③ 学習支援システム moca や Office365 を有効活用した発展的学習支援(動画配信等)を行う。
- ④ 実験、実習、体験活動の積極的導入する。
- ⑤ カリキュラム・マネジメントの実施とスクーリング改善を行う。
- ⑥ 発展的学びを示唆し、読書活動につなげる。
- ⑦ 学習者が適切な質問や意見交換ができるスクーリングの展開を行う。
- ⑧ 限られた保健体育のスクーリングを通して体力向上の意識を向上させる。
- ⑨ グローバル人材育成指針に基づき、自律的・主体的に学ぶヒントを提供する。
- ⑩ オンライン英会話参加者を増加させる。

イ) レポート指導

- ① 正答には深い学びにつながるコメントを、誤答には正答にたどり着くヒント・コメントの付与を具体的にする。
- ② レポートヒント集を作成し活用できるように指導・支援を行う。
- ③ 教科担当者と担任とが連携して重層的に指導・支援を行う。
- ④ 電子レポートの全教科実施と同時に実施上の課題解決を図る。

ウ) 考査

- ① 適切な観点別評価ができる作問を研究し、作成する。
- ② オンライン考査等も視野に入れて実施方法を検討する。
- ③ カリキュラム・マネジメントにより、学力の弱点克服と学力伸長を図る。

オ) 授業力向上

- ① スクーリング方法、添削方法、生徒の学業支援方法等の校内研修を定期実施する。

[進路指導]

<目標>

(A) 進路実現 (B) 転退学者の削減

<方策>

- ① 進路意識を全員分把握し、進路指導に活用する。
- ② 担任による面談(対面又は双方向オンライン)の計画的に複数回実施する。
- ③ 卒業対象学習者の個別指導・支援計画の作成をし、指導・支援に活かす。
- ④ 自立支援チームや若者サポートステーション等の活用をする。
- ⑤ 進路指導部による教員研修の計画的実施する。
- ⑥ 在籍生徒の就労等状況を前後期それぞれ把握し、進路指導に役立てる。

[生活指導]

<目標>

- (A) 安全で安心な学校生活の維持・管理
- (B) 授業規律の維持・管理
- (C) 多様な課題を持つ生徒の健全育成

〈方策〉

- ① 自立支援チーム(ユニット)を活用して生徒指導・支援に役立てる。
- ② 協働する機会を提供する。
- ③ 授業規律から社会規範への発展的指導・支援を行う。
- ④ 教職員が範を示す言動を行う。
- ⑤ きめ細かに学習者を観察し、課題を共有し、指導・支援に活かす。
- ⑥ 居場所作りの適正運営(自立支援チーム、NPO 法人等の連携及び校内別室指導推進事業実施校制度の活用)を行う。

[特別活動・部活動]

〈目標〉

- (A) HR 活動の活性化 (B) 生徒会活動の活性化
(C) 学校行事の活性化 (D) 部活動の活性化

〈方策〉

- ① 魅力あるHR運営の実践と共有を行う。
- ② 地域につながる生徒会活動の支援を行う。
- ③ 魅力ある学校行事を計画し、実施する。
- ④ 部活動の機会提供と魅力提供を行う。
- ⑤ オンラインでできる活動の研究を行う。

[健康づくり]

〈目標〉 生徒自身が主体的に心身の健康を管理できる資質・能力の育成

〈方策〉

- ① 担任と学習者の合意形成による指導・支援計画策定と実践を行う。
- ② 相談体制の継続的改善を行う。
- ③ 全教職員による登校時の学習者観察と情報共有を行う。
- ④ 健康診断受診を推奨する。
- ⑤ moca を活用して、相談体制の情報提供を行う。

[募集・広報活動(地域交流等)]

〈目標〉

- (A) 定員の充足 (B) 地域との連携

〈方策〉

- ① HP からの発信を充実する。
- ② 学校案内の刷新と配布機関の拡大(都内中学校をはじめ、適応指導教室、夜間中学、保護司会等)を行う。
- ③ 教育関係者向けの説明会の実施(定時制と共催)をする。
- ④ 校内掲示物のユニバーサル・デザイン化を行う。
- ⑤ 授業公開、フェスタ等の地域公開を継続する。

[学校経営・組織体制]

〈目標〉

- (A) 働き方改革の推進 (B) 生徒の伸長を目指した教育活動の組織化・活性化。

〈方策〉

- ① 教職員一人ひとりが課題を発見し、その改善策・改革案を提案、実践する。
- ② 職層及び教職経験を活かしてOJTを各自が計画的に実施する。
- ③ 各校内組織がマネジメントサイクルを行う。
- ④ 各教科がカリキュラム・マネジメントを適切に行い、指導と評価の一体化を行う。
- ⑤ 都のコンプライアンス方針に基づき業務遂行をする。
- ⑦ 生徒と教員が双方向になる指導・支援を行う。
- ⑧ 平日スクーリングの充実について調査・研究を行い、生徒の居場所作りを研究する。
- ⑨ 教育系と行政系が積極的に情報交換をし、連携する。
- ⑩ 中途退学者減少につなげるため、活動率、単位修得率の向上策を検討する。

(2) 重点目標と方策

令和6年度 重点目標	具体的目標値	主な方策	(目安)	成果
① 学習意欲の継続、学力定着への支援	単位修得率 55%⇒ % (前年度 52%)	面接指導の工夫 学校評価(生徒)肯定的評価	(77)%	
	活動率 (単位修得者数 ／在籍者数) 72%⇒ % (前年度 71.2%)	資格(英検・漢検・高認等)取得の奨励	延(14)人	
		レポートのヒント集を作成、公開	(30)科目	
		前期考査受験者の増加 登録者比	(83)%	
		締切期限を守るレポートの提出 提出率	(74)%	
		学則による退学者の減少(1月在籍比)	(5)%	
② 進路希望実現への支援	進路目標決定状況 卒業年度当初 75%⇒ % (前年度 70%)	進路情報の定期的な発信 月報 Moca	(5)回 (24)回	
		「総合探究1」にキャリア教育講座を開設	延(4)講座	
		放課後に進路分野別ガイダンスを実施 上記キャリア教育講座、ガイダンス受講者の増加	(5)回 (100)人	
	進路決定率(進学、 就業、主夫・主婦) 89%⇒ % (前年度 88.3%)	夏季休業期間に講習・補習を開講	(15)講座	
		進路の手引きを使う特別講座の開設 (総合探究1及び就職セミナー受講者の増加)	延(33)講座 (500)人	
③ 主体的自律的な 学校生活の推進 と安全で安心な 学習環境の維持	学校生活の充実 学校評価(生徒) 肯定的評価 68%⇒ % (前年度 66%)	行事(スポーツ大会・フェスタ)への参加 参加率	(30)%	
		部活動の活性化 加入率	(12)%	
		特別スクーリングの実施	(10)回以上	
		特別スクーリングへの積極的な参加 参加者数	(420)人	
	防災意識の向上 避難訓練参加率 33%⇒ % (前年度 32.5%)	防災訓練(講話・避難訓練)の実施	(4)回	
	健全育成指導状況 体罰 0 いじめ 0 管理内学校事故 0	内容を精選した月報の定期的な発行(掲示・配信)	(5)回	
		セーフティ教室の実施 参加者数	(200)人	
		研修会(いじめ、体罰、健全育成、特別支援教育)	(10)回	
		教育相談状況報告会を月例会として開催	(12)回	
		学校内外の巡回を毎週実施	(24)回	
地域清掃を年3回実施、参加生徒の増加		(180)人		
④ 広報活動の 積極的・組織的 な展開	説明会参加 80組⇒ 組 (前年度 78組)	資料を改善した説明会等の校内実施	(3)回	
		外部説明会への参加	(1)回	
		中学校・都立高等学校・関係機関への広報 (郵送・FAX・電子メール等を含む)	(550)ヶ所	
		教育活動のHPでの紹介 更新回数	(月2)回	
⑤ 適正で効果的な 学校運営	マネジメントサイクル に基づく学校運営	適正な予算執行と効果的な予算編成	執行・編成	
		分掌部会を定例的に開催する	週(1)回	
		分掌目標の設定と実施評価	設定・評価	
		学校運営連絡協議会へのPDCAに基づく報告	(3)回	